

地域文化情報誌【Cradle】

2014 年 11 月号掲載

先端研の研究助手になるために鶴中央へ。
将来はここに帰り、地域に貢献していきたい。

山形県立鶴岡中央高校3年

土田雄大さん

先端研バイオラボ棟に隣接する県立鶴岡中央高校。その在学生を対象とする「研究助手」制度は、「特別研究生」より早い平成21年に始まりました。平日の放課後に勤務し、先端研からアルバイト代が支払われるというユニークな制度です。

鶴岡中央高校3年の土田雄大さんは、1年生の時から毎日ラボ棟に通う研究助手です。「小さい頃から生物の科学者になりたいという思いがあったのですが、その夢を叶える道筋がわからなくて。中学3年生の時に鶴岡中央高校の研究助手制度を知って、これだ！」と受験を決意しました。入学後の4月に先端研で研究助手の採用面接があったのですが、そこでも僕より熱意のある人間はいないはずという気持ちで挑みました。

めでたく研究助手となった土田さんは、先端研で進められているオイル産生藻の研究に出会います。これは、二酸化炭素を吸収して細胞内にオイルを産生する藻類の研究で、地球にやさしい次世代バイオ燃料として注目が集められている分野です。土田さんは、地球環境の未来を変

えるかもしれないスケールの大きさとロマンに惹かれ、この研究グループに所属、従事してきました。中でも土田さんが特任講師の仲田崇志さん指導のもと地道に取り組んできた研究は、平成26年7月に国際的な専門誌に掲載。土田さんは仲田さんや富田さんと同じ研究員の一人として名前を連ねました。仲田さんは話します。「藻の品種改良をするには掛け合わせが大事なので、日本とアメリカの藻の掛け合わせが可能かどうか以前から気になっていました。その実験を土田君に担当してもらったので、この論文は土田君がいなかったら書いてなかったですね」。

世界最先端の施設と研究者に囲まれ、高校生ながら研究の進歩に貢献した土田さん。「3年間続けてきた僕は、この活動のありがたさが身に染みてわかります。これから大学進学で鶴岡を離れても、将来は先端研に戻って、研究を通して地域に貢献していきたいし、優秀な人材を育てるべく、高校生の教育プログラムにも携わりたいです。夢は、庄内を世界一の研究都市にすることですから」。

Yudai TSUCHIDA
Tsuruoka Chuo Highschool

今年8月、「第4回全国バイオサミット在鶴岡」にて「遺伝子解析による、単細胞緑藻類 *Chlamydomonas reinhardtii* の大陸間交雑性の証明」を発表。鶴岡市長賞を受賞しました。

